

# 対策の効果検証と計画の見直しの実際と注意点

株式会社 野生動物保護管理事務所

岸本 康誉

## 講演要旨

### ■はじめに

不確実な要素によって状況が大きく異なるシカの管理において、計画が妥当であったか、また、実行した対策が有効であったかを確認することは、適切な業務推進と予算執行という点でも必要不可欠である。また、それら評価の結果に基づいて、既存計画を見直していくことも順応的管理の考え方の基本である。

ここでは、事業の評価と見直しについて、都道府県で収集された実際のデータを活用しながら解説し、さらに、これらのサイクルを継続的に実行していくために、データ収集と業務管理の体制整備についても説明する。

### ■効果検証と計画見直しの流れ

はじめに、効果検証の基本設計の方法を説明し、効果検証から被害と必要な捕獲の予測、予測結果の照合までの一連の流れを解説する。具体例として、森林下層植生衰退度を挙げて、4年後の調査結果の変化に基づいて、その間の対策の効果を検証し、捕獲計画に沿った被害の予測と衰退防止に向けた捕獲数の設定方法を説明する。さらに、予測結果と対策実施後の調査結果を照合し、森林下層植生衰退度に着目した効果検証と見直しまでの一連の流れを説明する。

### ■計画の見直しに関する実例

見直しの項目として、「モニタリング方法の見直し」「評価・分析方法の見直し」「効果検証と対策目標の見直し」「効果検証と管理目標の見直し」を取り上げて、都道府県での鳥獣管理の中での実例を踏まえながら解説する。「モニタリング方法の見直し」では、生息密度モニタリングの時間的な変化から見直しのヒントをどのように得るかを説明する。また、「効果検証と対策目標の見直し」と「効果検証と管理目標の見直し」では、ベイズ法による個体数推定の導入と推定結果の修正、それに伴う捕獲目標頭数の見直しについて解説する。「効果検証と管理目標の見直し」では、兵庫県での取り組みを事例として、森林下層植生の回復に向けた密度管理の目標設定の見直しについて解説する。これらの事例を踏まえて、適切で柔軟な計画の見直しの重要性について説明する。

### ■データ収集と業務管理の体制整備

これらのデータの収集と検証、見直しまでの流れを速やかに、なおかつ継続的に進めるために、データの収集頻度に応じた仕組み作りについて解説する。特に、有事の際に、その都度データの収集と共有が必要な「捕獲情報」や「出没情報」のデータ収集のあり方について、現在、都道府県で活用されているシステムを含めて紹介する。